平成 18 年 10 月 20 日
東京大学医学部附属病院
広報企画部

第 9 回 記者懇談会ご案内（胃・食道外科） 平成 18 年 10 月 27 日

皆様におかれましては時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
第９回のテーマは、「胃がん」についてです。講演者は、東京大学医学部附属病院 胃・食道外科 教授 上西紀夫です。ピロリ菌の発見以後、胃がんについて様々な研究成果が見られています。しかし、未だ年間５万人近い患者様が胃がんで命を落とされているのも現状です。胃がんの発生理由、胃がんと診断されたとき、胃がんで死なないために、最近の動向について、最新の実験的・臨床的知見を踏まえお話しします。
つきましては、下記要項をご確認いただき、適宜お申し込みくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。皆様のご参加をお待ちいたしております。

【開催日時】平成 18 年 10 月 27 日（金） 17：00～19：00
【開催場所】東京大学医学部附属病院 管理研究棟 2 階 第 3 会議室
【講 演 者】東京大学医学部附属病院 胃・食道外科 上西 紀夫 教授
【お申込方法】東京大学医学部附属病院 広報企画部までメール（pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp）
にてお申込ください。
〆切 平成 18 年 10 月 24 日（火） 17：00 迄
【会場地図】

【演　題】胃がんの診断・治療・予防について
ー胃がんは減っているのか、胃がんは治るのか？

　ピロリ菌の発見を契機に胃がんの発生、診断、治療、予防に関する研究は一段と進歩し、胃がんの罹患率および死亡率は減少してきています。そして、2005 年度のノーベル医学・生理学賞は、ピロリ菌の発見者であるオーストラリアのウオーレン博士とマーシャル博士が受賞しました。しかしながら、わが国における胃がんの患者数としては必ずしも減っておらず、とくにスキルス胃がんは相変わらず難治です。したがって、年間 5 万に近い患者さんが今も胃がんで命を落としています。

　本懇談会では、胃がんはどのようにして発生するのか、胃がんの最近の動向は、もし胃がんと言われたら、胃がんで死なないためには、について、最新の実験的、臨床的知見を踏まえながらお話ししたいと思います。

【お申込・お問合せ先】
東京大学医学部附属病院　広報企画部　（担当：安倍）
電話（直通）：03-5800-9188　e-mail: pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp

お席の確保等の調整があるため、参加ご希望の方はメールにて事前のお申し込みを宜しくお願い申し上げます。

〆切：平成18年10月24日（火）17：00迄